



総合学術調査報告書発刊に寄せて

木沢村長 中 東 利 延

平成16年度事業として昨年来阿波学会によって実施頂きました、木沢村総合学術調査の成果がまとまり、ここに報告書発刊の運びとなりましたことは誠にめでたく心よりお喜びと共に御礼を申し上げます。

また、この度の調査に際しましては、多くの村民の方々からも案内助言等沢山のご協力を頂きました。この機会に併せて御礼を申し上げます。

折しも昨年の木沢村は、未曾有の台風災害に見舞われ、長期間にわたる交通途絶等のアクシデントと大混乱の中での調査だっただけに、初期計画への影響や調査に当たられた先生方のご苦労は大変なものであったろうと推察し、改めてご慰労を申し上げます。

木沢村は、この度の平成大合併によって、平成17年3月1日から「那賀町」として発足致しますが、その最後の年にこの総合学術調査のご採択を頂いたことは、誠に幸運だったと喜んでおります。

本村は県下でも一番人口の少ない村ですが（12年国調957人）、面積は155km²と広大で、そのうち97%が山林という純山村であります。これまで専門的な学術調査は殆どされていなかっただけに、今回の調査によせる期待と意義は大きなものがありました。

また、たまたま合併50周年を記念して村誌の続編編集も進めておりましたので、それへの貴重な資料として活用させて頂けるのではないかと期待もありました。

山深い山村だけに時代文化に汚染されてない自然資源や、人文資源がまだまだ色濃く残されている地域でもあります。

岩倉集落の平家落人伝説、式内社である宇奈為神社、国の文化財である坂州農村舞台や人形浄瑠璃、希少な植物のタヌキノシヨクダイ等々。また複雑な地質だけにそこに自生する植物も多様であり、石の種類も多いことでも知られています。

また、木頭林業地帯の一角を占めているだけに、林業景気に潤った時代もあり住居や生活様式が、比較的早く近代化された側面もあります。昭和20年代半ばに着手された那賀川電源開発事業の影響も大きかったと思います。

この報告書は、それぞれ専門的な視点からの調査書であるだけに、権威ある貴重な成果として末永くご活用頂けるものと存じます。

今回の調査に当たりましては、阿波学会の調査団の方々のご労苦はもとより、県立図書館の関係各位並びにご協力頂きました村民の皆様に重ねて厚く御礼を申し上げ、併せて皆々様のさらなるご健勝とご活躍をお祈りして私の挨拶と致します。